

2022年8月28日（日）聖霊降臨後第12主日

銀座教会 主日礼拝（家庭礼拝）

礼拝招詞「主よ、わたしたちの主よ あなたの御名は、いかに力強く
全地に満ちていることでしょう。 天に輝くあなたの威光をたたえます」

詩編8編2節

主の祈り

交読詩編 詩編13編2～4節

いつまで、主よ わたしを忘れておられるのか。

いつまで、御顔をわたしから隠しておられるのか。

いつまで、わたしの魂は思い煩い（わずらい） 日々の嘆きが心を去らないのか。

いつまで、敵はわたしに向かって誇るのか。

わたしの神、主よ、顧みてわたしに答え

わたしの目に光を与えてください

使徒信条

讚美歌 70番 父、み子、み霊の ひかりの主よ

聖書 出エジプト記34章1～10節

1 主はモーセに言われた。「前と同じ石の板を二枚切りなさい。わたしは、あなたが砕いた、前の板に書かれていた言葉を、その板に記そう。2 明日の朝までにそれを用意し、朝、シナイ山に登り、山の頂でわたしの前に立ちなさい。3 だれもあなたと一緒に登ってはならない。山のどこにも人の姿があってはならず、山のふもとで羊や牛の放牧もしてはならない。」4 モーセは前と同じ石の板を二枚切り、朝早く起きて、主が命じられたとおりにシナイ山に登った。手には二枚の石の板を携えていた。5 主は雲のうちにあって降り、モーセと共にそこに立ち、主の御名を宣言された。6 主は彼の前を通り過ぎて宣言された。「主、主、憐れみ深く恵みに富む神、忍耐強く、慈しみとまことに満ち、7 幾千代にも及ぶ慈しみを守り、罪と背きと過ちを赦す。しかし罰すべき者を罰せずにはおかず、父祖の罪を、子、孫に三代、四代までも問う者。」8 モーセは急いで地にひざまずき、ひれ伏して、9 言った。「主よ、もし御好意を示してくださいますならば、主よ、わたしたちの中であって進んでください。確かにかたくなな民ですが、わたしたちの罪と過ちを赦し、わたしたちをあなたの嗣業として受け入れてください。」10 主は言われた。「見よ、わたしは契約を結ぶ。わたしはあなたの民すべての前で驚くべき業を行う。それは全地のいかなる民にもいまだかつてなされたことのない業である。あなたと共にいるこの民は皆、主の業を見るであろう。わたしがあなたと共にあって行うことは恐るべきものである。」

牧会祈禱

天の父なる神さま。8月最後の主の日、御前に立つ事を赦して下さり感謝いたします。主にある兄弟姉妹と共に主日礼拝を捧げる幸いを感謝いたします。家庭礼拝をささげている私たちはあなたの家族として歩んでまいりました。隠れた労苦をご存じの主が慰めてくださることが唯一の心の支えです。十字架の贖いがなければ生きることの出来ない罪人をお赦しください。キリストの御名によって祈ります。アーメン

最初に十戒が与えられた時のことです。モーセとアロンを指導者としてエジプトを脱出した奴隷であった神の民は、3ヶ月目の道のりを歩き続け、シナイの荒れ野に到着しました。出エジプト記19章に記されているように、シナイの荒れ野において、神は神の民を山の境に残して、モーセだけ神のおられる山頂に登るように命じました。神は十戒とともに出エジプト記20章から24章に記されている「契約の書」をモーセに授け、シナイ契約を結びました。

この時、民は恐れ、モーセに願い出ます。民は、神の声を直接聞くと私たちが死んでしまいますからモーセが代表として神の声を聞いて私たちに伝えるようにと願い出ました。モーセは民に答えました。「恐れることはない。神が来られたのは、あなたたちを試すためであり、また、あなたたちの前に神を畏れる恐れをおいて、罪を犯させないようにするためである。」モーセはそう語り、モーセだけが神のおられる密雲に近づいていきました。

神がモーセに十戒と「契約の書」を与えた時、神の民がいるところで語られたのではありません。多くの神の民の中からモーセ一人だけを選び、神はモーセにだけ語られたのです。そして、モーセは神から聞いたことを神の民に語り伝えました。神がモーセに語り、モーセが民に伝えるという二段階の伝達方法を神が用いてくださいました。出エジプト記31章18節に記されているように「主はシナイ山でモーセと語り終えられたとき、二枚の掟の板、すなわち、神の指で記された石の板をモーセにお授けになった」のです。出エジプト記24章17～18節に記されているようにシナイ山での神とモーセの大切な時は下界からは山の頂が燃えているようにしか見えませんでした。「主の栄光はイスラエルの人々の目には、山の頂で燃える火のように見えた。モーセは雲の中に入って行き、山に登った。モーセは四十日四十夜山にいた。」神の民には見えない所で、神とモーセは大切な時間を過ごしておられたのです。しかし、下界の者には、神がお働きになっていることが見えないだけでなく、想像することも理解しようとする事さえ出来ないのです。

32章、下界に留め置かれていた神の民は、モーセがなかなか下りてこないのを見て、アロンのところに集まっていました。そしてアロンに対してモーセがどうなったか分からないので、我々を荒れ野で導いた神々を造れと迫りました。アロンは、神の民から集めた金の飾りで、金の子牛を造りました。そして「イスラエルよ、これこそあなたをエジプトの国から導き上ったあなたの神々だ」と言った。アロンはこれを見て、その前に祭壇を築き、「明日、主の祭りを行う」と宣言した。大変なことになりました。

主なる神とモーセの聖なる時間を理解できない下界の民は、モーセが山に向かって40日40夜、連絡が途絶えていたため不安になりました。モーセは山で遭難したと思ったのでしょうか。皆さんはモーセを待つことの出来ないこの民に同情するのでしょうか。ここに最も深刻な罪が入り込む道があるのです。神の時を待つ忍耐が大切なのです。神の時を待てない私たちは命取りの崖を歩いていることに気付かなければなりません。モーセが戻ってこないことで神が見えなくなってしまっただけでなく、神も消えうせ、別の神を作り出そうとしているのです。いまやアロンと神の民は神以上の存在になっているのです。

主イエス・キリストはマタイによる福音書24章から25章にかけて、苦難の中で目を覚ましていなさいとお語りになりました。十人のおとめの譬えを話されました。花婿を待つ用意が出来ていた5人のおとめと、花婿が到着する備えが出来ていなかったおとめを通

して「目を覚ましていなさい。あなたがたは、その日、その時を知らないのだから。」とお語りになりました。私たちは「その日、その時を知らない」のです。

下界でのアロンと神の民がおかしな事になっていることを知った神は怒ります。

主はモーセに仰せになった。「直ちに下山せよ。あなたがエジプトの国から導き上った民は墮落し、8 早くもわたしが命じた道からそれて、若い雄牛の鑄像を造り、それにひれ伏し、いけにえをささげて、『イスラエルよ、これこそあなたをエジプトの国から導き上った神々だ』と叫んでいる。」9 主は更に、モーセに言われた。「わたしはこの民を見てきたが、実にかたくなな民である。10 今は、わたしを引き止めるな。わたしの怒りは彼らに対して燃え上がっている。わたしは彼らを滅ぼし尽くし、あなたを大いなる民とする。」出エジプト記 3 2 章 7～10 節

主なる神の怒りはどうなったのでしょうか。その後、モーセの熱心な説得で「彼らを滅ぼし尽くす」という神のお考えを撤回してもらうことが出来ました。

「15 モーセが身を翻して山を下るとき、二枚の掟の板が彼の手にあり、板には文字が書かれていた。その両面に、表にも裏にも文字が書かれていた。16 その板は神御自身が作られ、筆跡も神御自身のものであり、板に彫り刻まれていた。」出エジプト記 3 2 章 15～16 節。急いで下山したモーセは、金の子牛の像と踊りを見て激しく怒って、手に持っていた石の板を投げつけ、山の麓で砕いて水の上にまき散らし、イスラエルの人々にその水を飲ませました。こうして、神御自身が作られ、書かれた石の板が粉々に砕かれてしまいました。そして、金の子牛を焼きこわし、レビ人を集めて反逆した民を断罪しました。

主なる神を軽んじて戒めを破った者は主の裁きを受けましたが、裁きだけで終わったではありません。主なる神は、宿営の外に「臨在の幕屋」をおいて、神が雲の柱をもって天から降ってこられ、モーセと語らう道を備えて下さいました。3 3 章 7 節以下、外に張った幕屋を臨在の幕屋と名付けて、主に伺いを立てる者は誰でもそのテントに入ることができるようにして下さいました。モーセが幕屋に行くときは、民全員が起立し、モーセが幕屋に入るまで見送りました。

モーセは幕屋において神が名指しでモーセ自身を選んだこと、これから歩むべき道をお示しくださいと願い出ました。そして神はモーセが求める栄光をお示しになりました。

そして、本日の 3 4 章に入ります。主なる神は、「前と同じ石の板を二枚切りなさい」と語り、モーセが砕いた前の板に書かれていた言葉をその板に記そうと語って下さいました。モーセは神がお語りなつたとおり、翌朝、二枚の石の板を持ってシナイ山に登りました。そして、再び、主の御名が宣言されました。

主なる神は、裁きの神であり恵みの神です。砕かれた石の板を再現します。再び同じ御言葉を刻み込んで下さいました。神の民を怒りの下で滅ぼし尽くすことなく、赦しの御業を現して下さいましたのです。私たちは、この神に礼拝をささげ祈っているのです。十戒が刻まれた石の板が再び与えられました。この石の板は神と民との永遠の契約のしるしです。神の時を待つことが出来ず、勝手な思い込みで神を軽んじる私たちの姿を直視しなければなりません。神の御前で時間ばかり気にしてせっかちで落ち着かない私たちです。神の御業に対してさえも早く早くと時間ばかり気にしてしまう私たちです。私たちの命の時間は私たちが支配する時間ではないのです。神が備え与えて下さった時間です。主日の時間は神の時間です。神にお委ねしたことを弁えず、あたかも神は消えてしまったかのように、神に代わって時間を支配しようとする罪深い者です。更には、私たちは、神は死んでしまったと宣言するような道へ、平気で走りだしてしまうのです。そして、金の子牛を

作って、その周りを踊るのが私たちの真の姿です。

このようなどうしようもない私たちの姿が描かれているのです。主の御前に弁解の余地のない私たちではないでしょうか。このような私たちを神は、裁きだけでなく恵みも備えてくださるのです。神はモーセを選び、再び石の板を持ってシナイ山に登らせます。モーセは、どのような心境だったのでしょうか。神の民の罪、同労者アロンの罪、そしてモーセ自身の罪の重さに気付き、重い足取りだったのではないのでしょうか。

主なる神は、降ってこられ「**モーセと共にそこに立ち、主の御名を宣言された**」と記されています。神はモーセが背負う重い罪を共に負っています。モーセだけに罪を負わせることなく、罪の重さに押しつぶされそうになっているモーセの傍らに降って行って、共に立ってくださったのです。そして、罪に押しつぶされそうになっているモーセと共に、真の主の御名を宣言する、恵みを与えてくださったのです。ここに主イエス・キリストの十字架を仰ぐ教会の姿があるのです。教会は罪深い者の集まりです。私たちの姿は、金の子牛を造り、踊り狂う罪をもっているのです。にもかかわらず、私たちを招き、主と共に主の御名を宣言する者とされているのです。主の驚くべき御業が行われているのです。

再契約の中に神の裁きと神の恵みが備えられていました。モーセは神が自分に与えた使命に耐えられなくなりそうとき、神の栄光を示してくださいと33章で求めました。その答えが、モーセの所に降ってこられ、モーセを抱きかかえるようにして、共に主の御名を宣言する姿に現されているのです。裁きの神であり恵みの神である主なる神は、罪深い民を赦すことによって再契約を結ばれました。最初の契約も再契約も同じ言葉です。そして、モーセに対する評価ではなく、主なる神の一方的な憐れみと恵みによって再契約が与えられたのです。実は、神はエジプトにおいて奴隷であった時から一貫して神の民を見つめ続けていたことが出エジプト記3章7～9節記されている御言葉から分かります。

7 主は言われた。「わたしは、エジプトにいるわたしの民の苦しみをつぶさに見、追い使う者のゆえに叫ぶ彼らの叫び声を聞き、その痛みを知った。8 それゆえ、わたしは降って行き、エジプト人の手から彼らを救い出し、この国から、広々としたすばらしい土地、乳と蜜の流れる土地、カナン人、ヘト人、アモリ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人の住む所へ彼らを導き上る。9 見よ、イスラエルの人々の叫び声が、今、わたしのもとに届いた。」

私たちは憐れみと恵みの神によって赦されているのです。神は神から離れてしまって、どうして良いのか分からない私たちの「苦しみをつぶさに見」「叫び声を聞き、痛みを知る」お方なのです。そして神は「降って行き」「救い出し」てくださいました。そして、主が傍らに私たちを立たせて、主の御前に立ち信仰を告白する者としてくださったのです。

「**共にそこに立ち、主の御名を宣言された**」主の驚くべき御業が行われました。神は罪深い私たちに対して、この初めの目的を保ち続けてくださるために、頑固でかたくなな心を打ち砕いてくださいます。そして、再び、御前に立つ者としてくださるのです。再契約を結んでくださった神の御前に立ち続けたいと願います。

讚美歌 301番 山べにむかいてわれ 目をあぐ

献 金

頌 栄 544番

祝 禱